

徒然草 攻撃的なテニスのために

ある人、弓射ることを習ふに、諸矢をたばさみ^{もろや}て的に向かふ。師のいはく「初心の人、二つの矢を持つことなかれ。後の矢を頼みて、初めの矢になほざりの心あり。毎度ただ得失なく、この一矢に定むべしと思へ^{けだい}」と言ふ。わづかに二つの矢、師の前にて一つをおろそかにせんとは思はんや。懈怠^{けだ}の心、みづから知らずといへども、師これを知る。この戒め^{いまし}、万事にわたるべし。(第九十二段)

ある人が弓道を習うときに、2本の矢を持って的に向かい、弓を構えた。すると、それを見ていた師範が言った。「コラ待たんかい！われ、なんさらしてけつかんネンこのドアホ！どシロウトが偉そに2本も矢あ持ったらアッカツンツちゅうてんねんホンマどついたらかあ？2本目えが残ったる思て1本目えで手え抜いてまうやろ。ちゃうか？当たるやろかあ、外したらどないしょー、そんなん考えとったらアカンのやアホンダラ！毎度毎度、この1本で必ず決めたら！て、なんでそない思わへんねん、このボケ！カス！」と言った。こんな師範の前で、たった2本しかない矢のうちの1本をいい加減に射ようなどと、どうして思うだろうか（反語）。でもconcentration（集中）を乱す^{うわ}浮ついた怠け心は、自分では気が付いていなくても、師範はちゃんと見抜いている。この戒め^{いまし}は、弓道に限らず、テニスにも通ずるに違いない。【佐々木訳】

彼の弾丸サーブが入る確率は10%。でも、慎重な2ndサーブなら90%の確率で入れることができる。彼がダブルフォルトをする確率は9%である。ただし、確率90%の2ndサーブでは、置きに行くだけの力ないボールが精一杯。これではアンダーサーブと変わりがない。

プロの2ndサーブの確率は75~80%。2ndサーブに90%の確実性を求めたら、当然、遅い球を安全なコースに打ち込むしかない。そうなると、相手だってリターンエースを狙って打ち込んでくる。では75パーセントの2ndサーブで、ダブルフォルトを10%以内に抑えるにはどうしたらいいだろう。答えは簡単。1stサーブの確率を上げればいいのだ。つまり1stサーブの確率を60%にすれば、2ndは75%でいいのだ。

60%の1stサーブ（フォルトの確率0.4）

75%の2ndサーブ（フォルトの確率0.25）

$$0.4 \times 0.25 = 0.1$$

数学の確率の話ではない。大切なのは何を“意識”してサーブ練習するかである。2ndを頼りにして目一杯の1stサーブを打ち、ノータッチ・エースを狙うことが“攻撃的なテニス”につながるわけではないのだ。消極的な2ndサーブをしなくてもダブルフォルトの確率を低く抑えられる安定した1stサーブを身につけることこそ、本当の意味での“攻撃的なテニス”である。